

操作画面の変更 — より柔軟により速く

マイクロイメージはモザイク処理を見直して、より便利で柔軟で、かつ重要な新機能を追加しました。主な新しい機能にコントロールウィンドウの改造やタイルセットラスタの出力、任意の座標参照系への投影、マルチバンド画像のモザイクなどがあります。新しいモザイク処理の中では大きなデータでも処理速度を高速化するために TNT 独自のパイプライン処理を使っています。

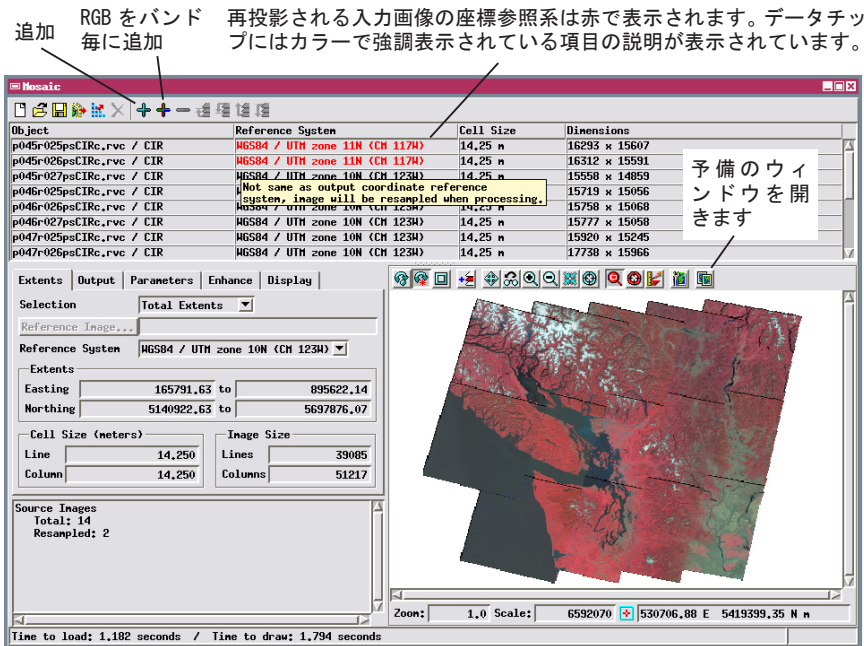
したい時は、“Extents Reference (範囲参照)” グループが画面に追加されます。

[Extents (範囲)] タブパネルの「Selection」メニューではモザイクの地理的範囲やその他の空間的な特性をコントロールすることができます。[Match Reference (リファレンスに合わせる)] オプションでは、モザイクを指定した参照画像の範囲や座標系、セルサイズに合わせる

ことができます。左図で示す [Total Extents (全範囲)] オプションでは、入力オブジェクトの範囲全体を使用しますが、モザイクの座標系やセルサイズ (または画像サイズ) を選択することができます。このオプションを使えば、入力オブジェクトに関連した座標系やあるいは全く異なる座標系からモザイク用の座標参照系を選択することができます。入力画像に使われている座標参照系はデフォルトに設定されます。[Extents] タブパネルの「Reference System (参照系)」メニューには入力オブジェクトに使われている全ての参照系が一覧表示され、それらを簡単に選択することができます。また、[Specify (指定)] オプションを使って、座標参照系ウィンドウを開いて TNT 製品でサポートされている参照系の中から選択することもできます。モザイク

や予備のウィンドウに表示される入力オブジェクトや参照オブジェクトは、指定した出力の座標系に投影されて表示されます。出力の参照系を変えるとこれら表示ウィンドウの画面は自動的に変わります。

出力モザイクは標準のラスタオブジェクトやタイルセットラスタとして格納されます。後者についての詳細はテクニカルガイドの“Mosaic: Mosaic Directly to TNT Tileset (モザイク: タイルセットに直接モザイクする)”をご覧ください。グレースケール画像やカラー画像 (RGB 分離とカラー合成)、マルチバンド画像もモザイクすることができます; これらのオプションに関する詳しい説明はテクニカルガイドの“Mosaic: Grayscale, Color, and Multiband (モザイク: グレースケール、カラー、マルチバンド)”をご覧ください。



モザイクウィンドウは、モザイクを行う際に必要な情報を表示するように再設計しました。各入力オブジェクトの座標参照系やセルサイズ、大きさを表示するため入力画像のリストを大きくしました。座標参照系やセルサイズの項目は、出力のモザイクと異なる場合は赤で強調表示されます。指定したモザイクの範囲の外側に入力オブジェクトがある場合は青で強調表示されます。リスト中の強調表示されたフィールドの上でマウスを止めると、その項目を説明するデータチップが現れます。

モザイクのウィンドウには処理パラメータを設定するためのタブパネルや、入力画像を表示するための表示ウィンドウがあります。また、必要であればサイズ変更可能な予備の表示ウィンドウを開くことができます。これらの表示ウィンドウに合わせて複数の表示グループを設定することが可能で、[Display] タブパネルに表示されます (右図)。“Source Images (ソース画像)” グループは入力ラスタ画像を含みます。モザイクをする時、参照用に以下2つのグループにオブジェクトを追加することができます: ソース画像グループの下の“Background (背景)”グループと、その上にある“Overlays (オーバーレイ)”グループです。参照画像に合わせてモザイクを

